

中国地域エネルギー環境教育研究会 2018 教師力アップセミナー講演録

◎日時/2018年8月25日(土)13:00~17:00

◎会場/TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

<開会あいさつ> 中国地域エネルギー環境教育研究会会長 田中春彦氏

中国地域エネルギー環境教育研究会の会長を務めています田中です。開会にあたり 主催者を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、新学期を間近に控えた何かとお忙しい時期に、また残暑厳しい中を、本セミナーにご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて最近のエネルギー事情に目を向けてみますと、先月発表された第5次エネルギー基本計画におきまして、低炭素社会を目指してエネルギーミックスの必要性が述べられていますことは皆様ご承知の通りです。

エネルギーミックスの内訳は、2030年度の電源構成の比率で、火力発電が約56%でそのうち26%を石炭火力、再生可能エネルギーと原子力発電を共に20%余りとする計画が策定されています。

その妥当性については賛否両論があり、今後も様々な立場から議論がなされるものと思われます。この点では、エネルギー政策にかかわる専門家だけでなく、出来るだけ多くの一般成人が論理的に判断できるようになり、その意見が民意として政策に反映されることが望まれます。

しかしながら、社会一般においては低炭素社会の実現に向けた温暖化対策やエネルギー自給率の向上などについての問題意識や危機意識は必ずしも高いとは言えないのが実情です。その点で、学校教育の中でこうしたエネルギー問題を扱う教育をこれまで以上に推進する必要性が高まっているといえます。

このような状況下で、エネルギー教育について、皆様と新たな知識・知見を共有するとともにエネルギー教育の在り方や課題について議論することは意義があるものと考えています。さらに、折しも新指導要領における指導法の新たな取り組みのキーワードとしてアクティブラーニングがあげられますが、本日はアクティブ・ラーニングにご造詣の深い、東京大学の日置先生に基調講演をお願いしております。

また、放射線教育について、福島県環境創造センターの佐々木先生にお話しいただく予定です。さらに、エネルギー教育の活性化についてパネルディスカッションも用意しておりますので、ご参加の皆様におかれましては、積極的に議論に参加していただき、今後のエネルギー教育の実践に役立てて頂ければ幸いです。

それでは、本日のセミナーが皆様にとりまして有意義なものになりますことを祈念いたしまして、簡単ではありますが、開会の挨拶とさせていただきます。

I 基調講演 13:10~14:10

演題 「アクティブ・ラーニングと理科教育」

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター

日置 光久 特任教授

アクティブ・ラーニングでは、主体的・対話的な授業を通して学習過程の質的改善が必要であると説かれ、今後の学習指導要領改訂の方向性として21世紀の社会が求める教育、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実が必要とされる理科教育に対する多くの課題を投げかけられた。



II ワークショップ 14:10～15:10

1. 福島県企画課 安齋 貴寛 主査による
福島県環境創造センター
交流棟コミュタン福島のご紹介
2. 福島県環境創造センター 交流棟
コミュタン福島 佐々木 清 教育ディレクター



演題「放射線教育と理科教育をむすび道德教育につなげる
～ 思いやりの心を育む放射線教育をめざして ～」

2011年3月東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に放射線に対する社会の目が厳しくなり学校教育での放射線授業は、約30年ぶりに復活するところとなった。冒頭、福島県企画課の安齋氏から福島県環境創造センター交流棟コミュタン福島の設立経緯が説明され、続いて同センター佐々木 清 教育ディレクターのご講演となった。

III パネルディスカッション 15:20～16:50

テーマ
「エネルギー教育の活性化を目指して」

1. 趣旨説明

島根大学教育学部 栢野彰秀氏

2. パネリストからの発表概要

- (1) 福島県環境創造センター 交流棟コミュタン福島 佐々木 清氏
「福島県の放射線教育活動について」
- (2) 島根大学教育学部 栢野彰秀氏
「島根大学教育学部・山陰エネルギー環境教育研究会で取り組むエネルギー教育」
- (3) 山口大学教育学部 重松宏武氏
「活性化に向けて『地を知る。そして知（地）を活用する』エネルギー教育」
- (4) 広島大学附属福山中・高等学校 山下雅文氏
「広大附属福山で取り組むエネルギー教育」



(5) 講評

コメンテーターとして東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 日置光久特任教授からパネルディスカッションの講評を頂き、各地域での取組みを高く評価頂いた。

(6) その他

会場には、福島県環境創造センター 交流棟コミュニティ福島佐々木 清氏の手作り霧箱ほかワークショップの教材も多数披露された。



以上